

KA教育3D研究会主催

『第8回情報交換会』開催レポート

ダイジェスト版

第8回目となる情報交換会を開催

実績と効果を存分に意見交換する貴重な場として定着

2009年2月21日(土)、東京都文京区本郷にある東洋学園大学の会議室にて、第8回KA教育3D研究会主催「情報交換会」が開催された。今回も20校を超える学校、および学校関係者が多数参加。平成17年にKA教育3D研究会の発足以来、3D教育プログラムを導入する学校は、増加の一途を辿り、実績と効果も発足



当初に比べて、格段に増加してきている。その効果を各学校が発表し合い、意見交換をするこうした会の取り組みが全体として同プログラムの価値を高めながら、学校教育への貢献を図ってきているといえるだろう。新しい価値が求められる時代。同プログラムへの関心は、今後も更なる高まりを見せていくに違いない。

第1部の研究会では、「京華中学校・高等学校における3D教育プログラムの実践」と題して、京華中学校・高等学校の進学指導主任・樋口元先生が実践報告を行った。同校の第3学年主任の浅野正樹先生も加わり、学校全体としての取り

組みから実際の現場における活用状況、課題など詳細にわたり発表された。



また、その後の意見交換会では、「各学校における3D教育プログラムの活用」とのテーマに沿って、実践状況に関するアンケートの集計結果報告やエゴグラムを通して見た各学校の成果、参加校における3D教育プログラムの活用状況など、

さまざまな視点の話があり、参加各校にとって充実した内容になったのではないだろうか。第2部の懇親会も自由闊達な雰囲気の中で、各学校間の交流が深められ、有意義な意見交換の場になった。

以上の内容で、情報交換会は無事、大成功で終了し、次回の開催へ向け、更なる飛躍を共々に誓い合う充実した今回の開催であったといえるだろう。

KA教育3D研究会会長挨拶(要旨) 順天中学校・高等学校教頭 片倉 敦先生

少子化時代における学校の特色づくりに貢献する3D教育プログラム

少子化の時代、公立とのせめぎ合いを迫られるという状況もございます。そうした中、学校の特色をアピールしていかなければいけません。その特色が、子供が学校を選ぶ際の一つの要になってくると思います。

本校では、エゴグラム、グループコミュニケーションを学校説明会で必ず説明しています。保護者の方からの反応は、とても興味を持っているとの意見が多く、学校の特色への関心の高さが伺えます。

これは、単に勉強、受験に特化しただけの学校づくりではいけないということです。確かに進学、受験への取り組みは大事ですが、それ以外の心の教育、生徒を育てる、子供の成長のための教育といった要素が求められるのだと思います。

その一つの方法がこの3D教育プログラムです。本校では今後も継続して活用をしていこうと思っております。

研究会を通じていろいろな取り組みを意見交換しながら、よりよい教材としていきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。



挨拶 東洋学園大学学長 一之渡 尚道先生

子供の成長につながる3D教育プログラムの重要性を強く感じる

実は私は子供の頃、友達を作れないという悩みがありました。その後、友達になった人から指摘されたことは、素直じゃない、感謝しないという点でした。だから友達ができないんだと。それからブラジルのアマゾンで生活する機会があり、そこでの生活を通し、素直になること、人に感謝することができる自分へと変わりました。その変化が友達を作れる自分へと変わるきっかけになったと思っています。3D教育プログラムを通して得るものと共通している部分が多いと私は感じました。

こうした子供の成長につながる教材は非常に大事だと思います。今後もまた機会があれば、私も参加させていただき、一緒に学ばせていただければと思います。



実践報告

京華中学校・高等学校における3D教育プログラムの実践

京華中学校・高等学校

進学指導主任 樋口 元先生 / 高校第3学年主任 浅野 正樹先生

自己適正把握・生活力の向上を

目指して3D教育プログラムを活用

実践報告では「京華中学校・高等学校における3D教育プログラムの実践」と題し、京華中学校・高等学校の進学指導主任・樋口先生と同校高校第3学年主任・浅野先生より3D教育プログラムの活用状況について、実践報告が行われた。

まず始めに、樋口先生より、同校における全体的な実施概要が紹介された。同校では、学習・進学指導に大きく3つの柱を掲げ、一つは、「学力アップと確認」、次に「目標設定・モチベーションの向上」、そして3つ目が基礎の部分となる「自己適正把握・生活力の向上」である。この基礎の部分としてエゴグラム、グループコミュニケーション学習を位置づけ活用している。これらが進学実績を上げていくための基本的な部



分だと捉え、かつ、この3つが別々に存在するのではなく、相互に補完し合っていくものと考えていると解説した。

次に中学校と高校でのそれぞれの実施形態に触れ、中学校では多目的総合の時間「GEM」として活用、高校では、AO入試や推薦入試の

面接、小論文に向けて、高校2年でキャリアアップゼミ、高校3年で小論文ゼミという名称で、それぞれの時期や進学指導に沿って3D教育プログラムを活用している。

全体的な課題としては、実施時間の確保があげられ、24年度から新学習指導要綱の改定が予定されているが、それに伴い、時間の確保が進むことを期待していると述べた。

エゴグラムを通して生徒への

細やかな指導を行うことが大切



次に浅野先生からは、3年間を振り返って感じたこととして、CPとAを上げるプログラムが非常に多かったことに気づいたと報告された。これは、学校全体として受験を意識して取り組んでいることがこうした結果になっていると思うと述べた。

また、実際の現場でプログラムに取り組んでいる教員は、エゴグラムのメリットについて、詳しく学んでいない実態があるとした上で、教員に対して、エゴグラムでどういう結果かを見ることが重要なのではなく、その結果を改善していくことができる点がこのエゴグラムのメリットであると訴えていると報告した。

「中には個人カードを渡さなければなしの教員もいます。やはりエゴグラムの結果をもとにした

細かい指導をしてこなかった点は反省するところだと思っています。そうした細やかな指導に通じていくことがこのプログラムの活用のポイントだと思います。そうすることで生徒一人ひとりの目的意識向上心が伸びてくると考えます。」と述べ、報告を終えた。



意見交換会

各学校における教育プログラムの活用状況

進行 片倉 敦先生（順天中学校・高等学校教頭）

① 3D教育プログラムの実践状況についてのアンケート集計結果報告

東京学園高等学校 進路指導部長 高野 淳一先生

② エゴグラムを通して見た各学校の成果

株式会社KA教育 代表取締役 菊地 淳

③ 参加校における3D教育プログラムの活用状況

① 3D教育プログラムの実践状況に関するアンケート集計結果報告

意見交換会の冒頭では、東京学園高等学校の進路指導部長・高野淳一先生より、アンケートの集計結果の報告が行われた。アンケートは各学校における3D教育プログラムの実践状況に関するもので、今回は15校がアンケート回答に協力。さまざまな回答内容が紹介され、今後の各学校の取り組みの参考になる意見が寄せられた。

アンケートの項目としては、3D教育プログラム導入



および活用の目的、他校の取り組みで参考にしたい点などがあり、それぞれの回答を紹介しながら、同プログラムを取り巻く各学校での教員の捉え方、



関心があるところなどを解説した。

② エゴグラムを通して見た各学校の成果



ここでは株式会社KA教育の菊地代表より「エゴグラムを通して見た各学校の成果」として話があった。

はじめにエゴグラムの概要説明が行われ、CP、NP、A、FC、ACの各項目の説明やエゴグラムの意義などについて解説があった。

そして、エゴグラムの意義、目的を確認しながらエゴグラムの向上、改善に努めていきたいと促した。

「私どものプログラムは実践エゴグラムです。自分を知ることでは終わるのではなく、その後、問題点を改善していくことに重きを置いています。そのためには、先生方の熱心

な指導が生徒の成長に欠かせません。」とエゴグラムを活用した上での各校の指導に期待を寄せた。そして順天高等学校、トキワ松学園高等学校、自由ヶ丘学園高等学校、駒場学園高等学校のそれぞれの3年生の入学段階と最後の秋に行ったエゴグラムを比較しながら、各学校の効果や課題について解説が行われた。



③参加校における3D教育プログラムの活用状況集計結果報告

■順天中学校・高等学校 片倉 敦先生

「高校3年生はもともと人数が多い学年でした。入学時では、CPのローエゴが高い学年でもあり、CPのハイとローで二極分化している状態がありました。学校全体として、さまざまな行事、進路に向けて取り組み、特進クラスと他のコースでプログラムを分けずに全て同一のプログラムを実施してきました。

その結果、学校全体で意欲が高まってきたと思います。教師陣も実践教育を合言葉に、例えば朝7時に教員全体で指導にあたるなど、生徒も教員も全体でとの意識を持ちながら、いわば組織力の順天として取り組んできました。

そのため、3D教育プログラムについても全クラスで同一時間帯に実施しています。教員間の温度差はありますが、同一時間帯で実施することで吸収し、やらざるを得ない雰囲気、やることでメリットがあると思える雰囲気を作っています。

進学についても全て学校でやっていくとの意識で、外部の予備校に通うのではなく、学校内でやっていこうと、外部の予備校講師を呼んだりもしています。」



■トキワ松学園中学校・高等学校 中山正秀先生



「本校は女子高で類型別にクラスが分かれています。美術が1クラス、文系進学が2クラス、文系特進が1クラス、理系が1クラスの5クラスの編成です。そのためクラスによって格差が非常に大きくあります。

この学年（現3年生）はどのクラスも似ている珍しい学年です。中学の時は非常に手がかかる学年でした。この学年の特徴は、3D教育プログラムやその他の取り組みについても非常に熱心に取り組んだ学年であったということです。

また、この学年の教員陣がわかりやすいタイプの先生ばかりで、生徒が担任に溶け込んでいる状況があります。そのため、何か注意されても反発がないんです。

その中でC PやAが伸びているのは、話し合い、ホームルームなど積極的に行ってきたことが原因だと思います。本校にはイエローカードのシステムがあり、何か注意を受けるとイエローカードが出され、枚数によって担任、学年主任、教頭、校長と指導を受けていくことになるのですが、話し合いなどからクラスとしてイエローカードを受けないようにしていこうという意識を持つようになってきました。

校長の評価も「この学年は自主性が高い学年」とあり、結果として入試実績も他の学年に比べてよかったです。

やはり中学校時代からのいろいろな取り組みの蓄積の成果と考えています。このグループコミュニケーション学習から学習意欲が高まってきていると感じています。」

■自由ヶ丘学園高等学校 笠間陽弘先生



「以前にも紹介させていただきましたが、本校は総合的な学習の時間で授業の一つとして時間を割いて取り組んでいます。その成果としてこうした結果につながっているのかなと思います。

実際のところ、本校では学力にコンプレックスを持った生徒が多いです。すぐにあきらめてしまったり、投げ出してしまったり。そのため、提出物の期限を守るなど、当たり前のことをしっかりと行うように総合の時間を活用して徹底してきました。

現在の課題はローエゴ。他校は1桁のところ本校は2桁のため、ここにしっかり取り組んでいきたいと思っています。

全体としては3年間計画を立てて取り組んできたことが改善につながっていると思います。」

■駒場学園高等学校 鴫田克彦先生

「この学年は多く入学し、11クラスある学年です。特別進学コースが1クラス、国際コースが1クラス、食物科が1クラス、そして一般コース文系が7クラス、理系が1クラスという内訳です。

全体としてはハイエゴのAが伸びた部分はよかったと思います。

この学年の担任陣は非常に個性派が多いため、逆に学



年として一丸となって何かをしていこうというふうにとまどりにくい学年だと思えます。

AO入試では、去年は延べ100名が受験したのに対し、今年は191名が受けました。合格率はクラス間格差があり、80%のクラスもあれば、30%のクラスもあるという状況です。また、学年間格差もあり、こうした格差を埋めていくのが今後の課題だと思っています。」

■ 明星中学校・高等学校 清水洋一先生



「今年度、中学1年生のほうでプログラムを道德という形で取り入れました。

また、プログラムとは別にリーダー研修会を実施しています。中学校1年から高校2年までの各クラスの委員長、副委員長を選出し、それから新しく学年推進委員会を今年度から立ち上げて、クラスのことというよりは学年のこと、学校のことを積極的に行うというものです。

ここでは月に1回程度、この委員長、副委員長を集めて、エゴグラムの実施、グループコミュニケーション学習を実施しました。

今まで、行事などについて生徒主導というよりも担任が運営する側面が強く生徒が自分達で動けるようにしたいとの考えからこうした取り組みを行いました。その結果、生徒達の中で自分達で学校を動かしてこうという意識が向上したと思えます。

グループコミュニケーションの授業でも司会、運営をはじめは担任がやりましたが、途中から生徒にバトンタッチするようになり、簡単なアドバイスは与えますが基本的には生徒主導で行うようになっています。思ったよりも生徒も上手に進め、生徒も担任からよりも同じ生徒の司会のほうが思ったことを言いやすい雰囲気を作り出せています。

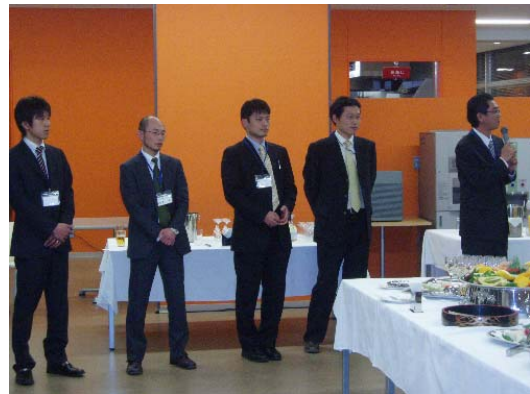
今後もプログラムやその他の取り組みを通して、生徒の自主性を伸ばしていきたいと思えます。」



懇親会



懇親会場にて撮影した参加者全員での記念撮影(写真上)



出
来
る
・
大
丈
夫
・
大
成
功

KA教育3D研究会
2009. 2.21 KA教育3D研究会 第8回情報交換会

株式会社KA教育
〒173-0012
東京都板橋区大和町12-12
03-6784-7675